

令和5年度 第1回 病院事業運営審議委員会資料

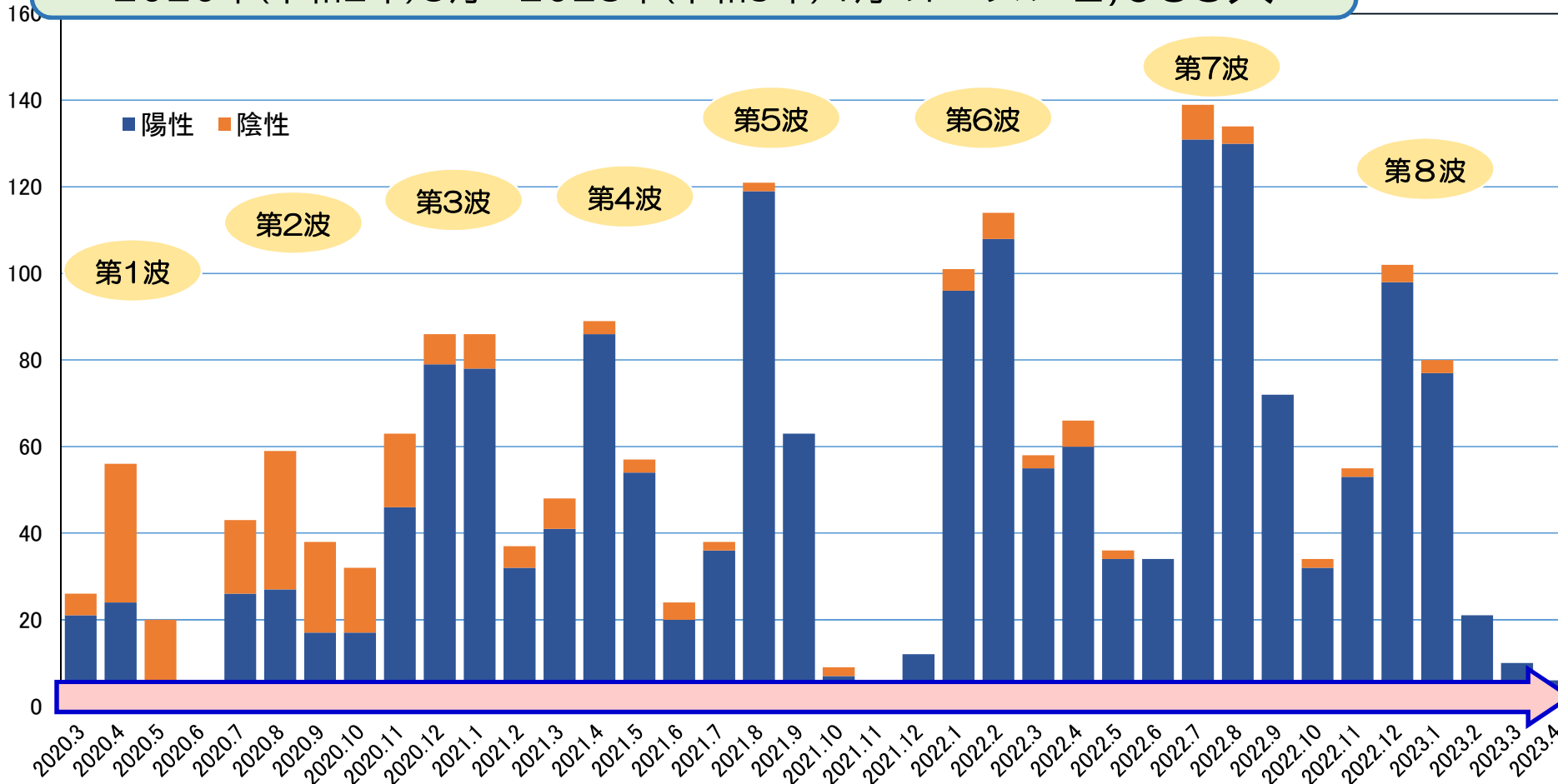
令和5年度の取り組みについて



新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナ感染症の月別入院患者数

2020年(令和2年)3月～2023年(令和5年)4月のトータル 2,083人



2023年5月8日から5類に移行

大阪府では9月までを移行期間として設定

5月8日以降の本院の体制

【大阪府の考え】

オール医療体制構築の観点から、現在、確保病床を有する医療機関は、重症・中等症Ⅱ患者等に重点化し、これら以外の患者対応はその他の医療機関での受け入れ。

～5月7日

重症		600床程度
中等症Ⅱ	妊産婦、小児、 精神、透析、 高齢者(要介護2以上)	4,400床 程度
中等症Ⅰ		
軽症		-

5月8日～9月末(予定)

200床程度
2,500床程度
-
-

受入医療機関は
これまでの**約6割**の
確保を想定

他の医療機関
で対応

5月7日以前

●受入れ対象

中等症Ⅱ及び中等症Ⅰの患者

●確保病床数

感染拡大の状況に応じ6分類で確保

フェーズ1	10床
フェーズ2	18床
フェーズ3	30床
フェーズ4	42床
フェーズ5(緊急病床除く)	42床
フェーズ5(緊急病床含む)	43床

5月8日以降

●受入れ対象

中等症Ⅱ及び中等症Ⅰと軽症のうち妊産婦、
小児、高齢者(要介護2以上)

●確保病床数

感染拡大の状況に応じ2分類で確保

平時	18床
感染拡大時	26床

【本院の対応】
府の考えを踏まえ、
9月末までは最大
26床を確保
※ 10月以降未定

それぞれの対応について個別に判断

5月8日

9月30日

【継続①】 発熱者専門外来の設置

【継続②】 入り口での検温等、発熱者の動線分離

【継続③】 院内マスク着用の協力

【継続④】 パーテーションの設置等、各種感染対策を講じる措置

【段階的緩和】 面会制限

【7月末終了】 電話診療

【6月末終了】 簡易診察室（プレハブ）

10月以降は
感染状況等
を見極め
改めて判断

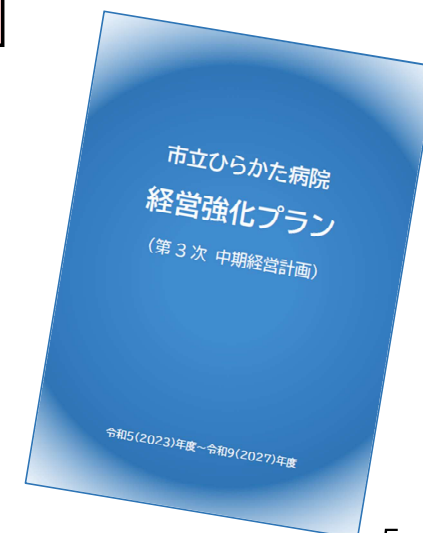
アフターコロナに向けた急性期医療の維持・推進

2類相当から5類に引き下げられたことで、多くの補助金や診療報酬上の特別措置が廃止・縮減



当面、経営的に厳しい状況が続くことが想定

アフターコロナの状況において本院が急性期病院として地域に貢献していくため、**市立ひらかた病院経営改革プラン（第3次中期経営計画）**に掲げた取り組みを着実に推進



目標の設定・職員への周知徹底

令和5年度は、最大目標に『収支均衡』を掲げ、『病院経営強化プラン(第3次中期経営計画)』の内容を踏まえつつ、経営目標を設定

柱のポスター2023

病院で定めた目標を掲示
職員の周知徹底と意識向上を図っている

これまでの“緊急経営改善チーム”に替え、新たに
“**経営戦略タスクフォース**”を立ち上げ、各種課題を議論

部署面談を実施。事業管理者・病院長・副院長と各部署・
診療科で目標や課題等について共有のうえ議論

市立ひらかた病院

柱のポスター 2023

コロナ前を
超える

本院の 重要業績評価指標 **kpi**

DPC期間II 超え率	新入院患者数 2019年度の
30%以内	10%増

KPI達成のための取り組み指標

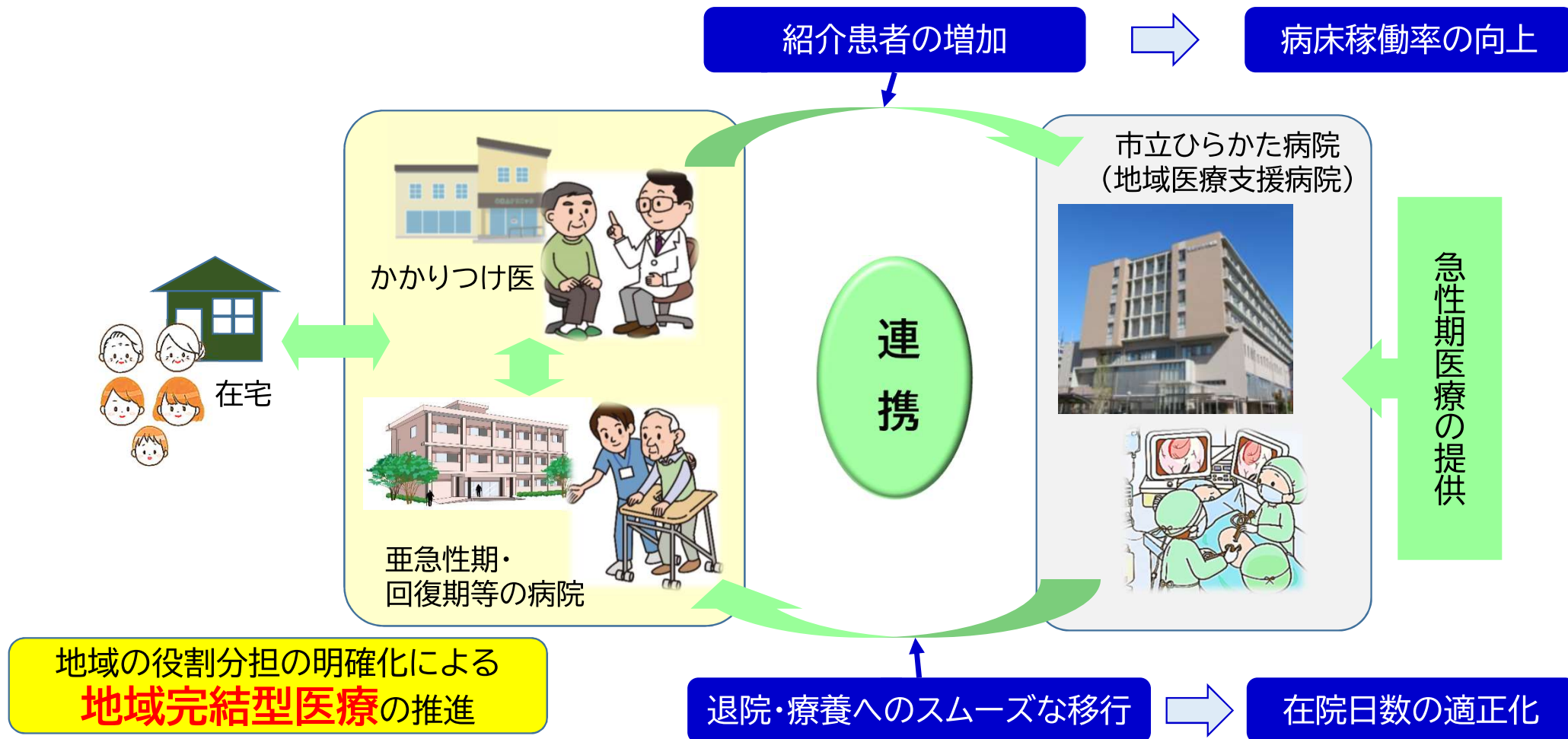
新紹介件数	月 817 件以上
救急応需率	90% 以上
救急入院率	40% 以上
手術件数	月 320 件以上

政策医療を提供する北河内唯一の市立病院

急性期医療を提供する地域医療支援病院

地域連携の強化 ～地域医療支援病院として～

●地域医療機関との更なる信頼関係の構築



医療機能の充実

センター設置による専門医療の提供

R1年度稼働

消化器センター

“食べられる”を目指して



R2年度稼働

下肢機能再建センター

“歩ける”を目指して



R4年度稼働

音声外科センター

“話せる”を目指して



声に関する問題を解決する専門科

2023.1 OPEN

音声外科センター



R4年度稼働

最先端医療機器「ロボット支援手術」を導入

da Vinci Xi Surgical System

これまで以上の幅広い疾患に低侵襲な医療を提供するために導入
今後は、更なる適用手術の増加を図っていく



今年度(R5年度)

高度治療室(HCU)の整備



呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者を24時間体制で管理し、より効率的な治療を施すことを目的とした施設で、本院4階東病棟に4床を整備

早期稼働に向け、5月8日から仮運用を開始

その他の主な取り組み

システムセキュリティの強化・障害時の体制整備

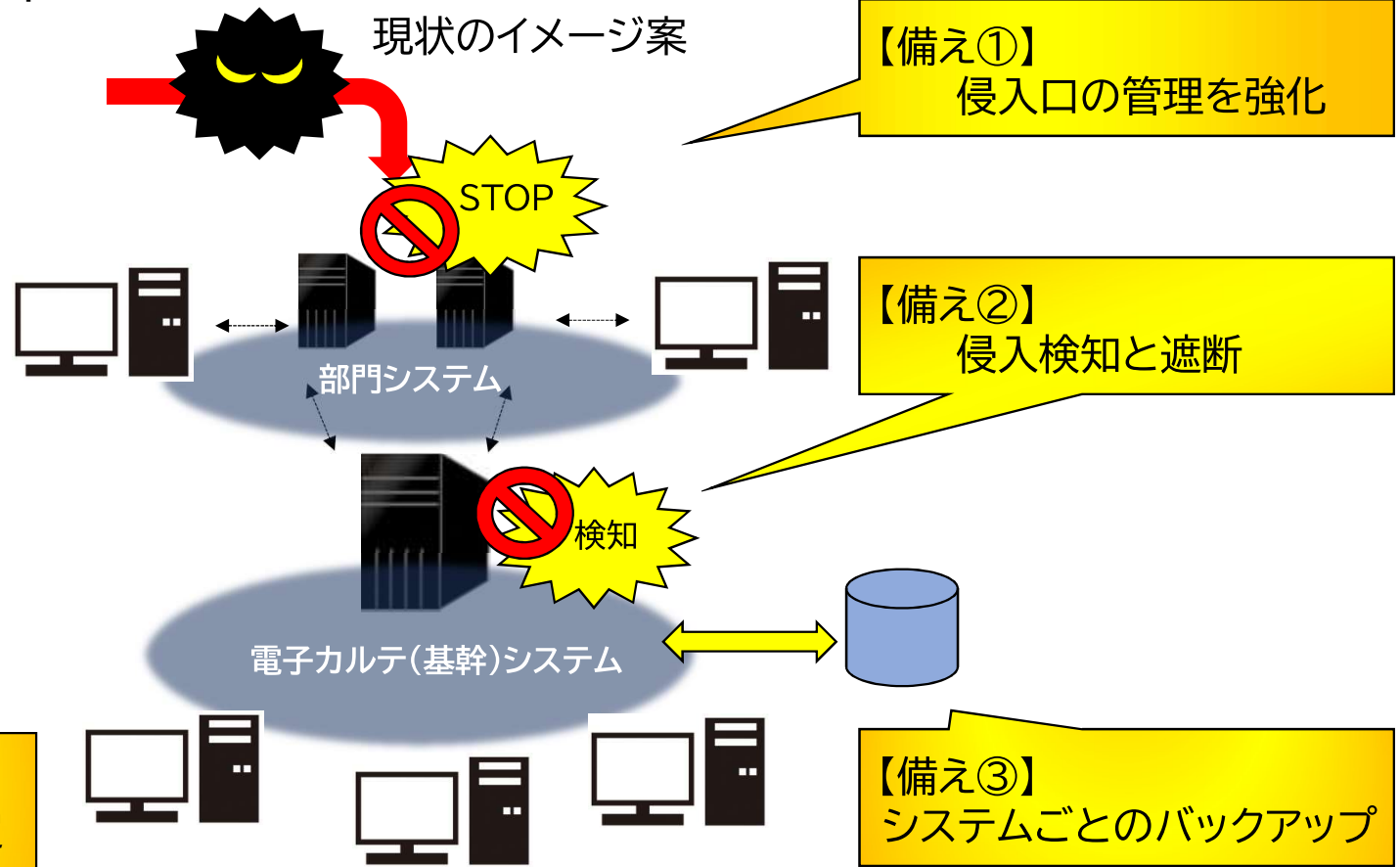
近年、脅威が高まる医療分野のサイバー攻撃への必要な措置を講じていく

「身代金」ウイルス
ランサムウェア システムに不正侵入し、データを暗号化して使えなくするコンピューターウイルス。ランサムは「身代金」を意味する英語で、攻撃者は、復元する代わりに身代金を要求する。海外で多数の被害が相次ぎ、2015年頃から国内でも確認されるようになった。身代金を支払わなければ、データを公開すると脅す手口もみられる。警察庁によると、警察に寄せられた被害相談は今年1～8月で81件あった。

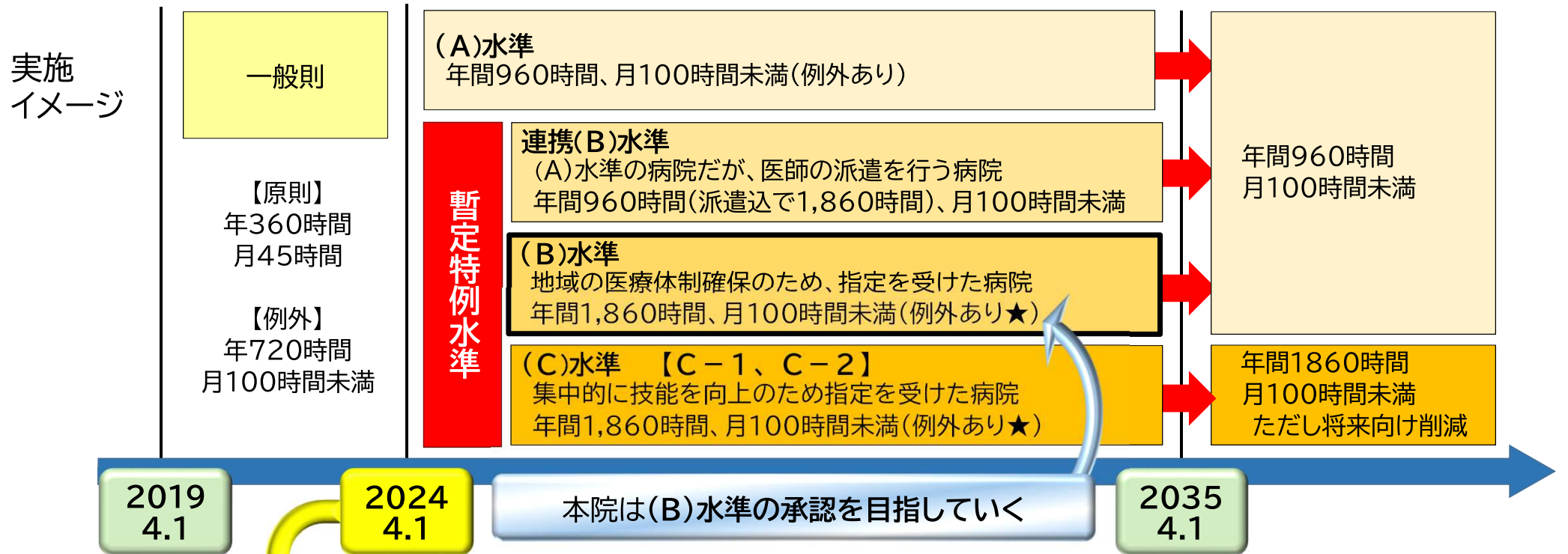
11病院サイバー被害
救急搬送・手術停止も

16年以降
医療機関へのランサムウェア攻撃のイメージ

2021. 12. 29 読売新聞



医師の働き方改革の実施に向けた検討



今年度(R5年度)に集中的な対応が必要

宿日直許可の届け出

医師の労働時間短縮計画の届け出

追加的健康措置等の検討

院内滞在時間における労働時間と非労働時間の整理

必要に応じ管理システム導入や給与制度見直しも検討

その他の取り組み

地域にとって必要な病院、患者にとって選びたくなる病院、職員にとって誇れる病院を目指し、今年度の重点的な取り組み以外に次の取り組みを進めます。

患者サービスの向上

- 2023年4月からWi-Fi(無線LAN)によるインターネット接続サービスの全館無料化を実施
- 設備の整備や貸与品の見直しなど、入院される患者の皆さんがこれまで以上に快適に過ごしていただける環境整備を検討

情報発信の強化

- 2022年度に病院ホームページを全面的にリニューアル
⇒ 今後も更なる充実に努めていく
- 市民公開講座やオープンセミナー、くらわんかフォーラム等の行事・イベントの積極的な開催

令和5年度 第1回 病院事業運営審議委員会資料

令和5年度の取り組みについて

